



## 〈新刊批評〉津村氏著「國民經濟學原論」下卷

瀧本，美夫

---

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 6(3):477\*-484

(Issue Date)

1909-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051371>



## 新刊批評

津村氏著「國民經濟學原論」下卷

津村君ノ達筆ハ眞ニ驚クベシ、曩キニ其著ノ上卷ヲ出シテヨリ日未ダ久シカラザルニ、昨秋ニ至リテ又同書ノ下卷ヲ公ニシタリ、而シテ其文章如何ニモ平易流暢ニシテ、初學者ト雖モ之ヲ讀ンデ直ニ其意ヲ理解シ得ルガ故ニ、大ニ讀書界ノ歡迎ヲ受ケ、連リニ其版ヲ重ヌルハ、斯

學普及ノ爲ニ吾人ノ同慶ニ堪エザル所ナリ、

之ヲ大體ヨリ言ヘバ、下卷ハ上卷ヨリモ一層上出來ニシテ、缺點ハ甚ダ少シト評セザルベカラズ、然レドモ人ノ思想ノ相異ルコト其面ノ如シ、予ハ本誌第四卷第一號ニ於テ上卷ヲ批評シタル因縁ニヨリ、茲ニ予ノ疑問トスル所ヲ列舉シテ、著者ノ一考ヲ煩ハサントス、

(一)商業ノ定義

著者ハ曰ク、商業トハ財ノ價值ノ増加ニヨリ

利益ヲ得ントスル純營利業ヲ云フト(三十二頁)、著者ノ眞意ノ在ル所ハ前後ノ文章ニヨリテ明瞭ナレドモ、斯クテハ工業トテモ同様ナリトモ言ヒ得ベキヲ以テ、寧ロ通常ノ定義ニ從ヒ商業トハ財ノ轉賣ニヨリテ利益ヲ得ントスル營利業ナリト言フ方穩當ナラザルカ、

(二) 價值ハ全然主觀的ナリトノコト、

價值ノ章ニ於テ、價值ハ凡テ主觀的ノモノナリト極言セラレタルハ、勿論予モ亦雙手ヲ舉ゲテ贊成スル所ナレドモ、實ハ或ル物ノ價值ノ判斷ハ各人が各場合ノ事情ニヨリテノミ爲スニ非ズ、吾人ハ通常、過去ニ於テ自己及他人ガ之ニ下セル價值判斷ヲ記憶シ居リ、之ヲ基礎トシテ、其上ニ各場合ノ事情ニ應ズル訂正ヲ施コスコトニヨリテ、始テ之ヲ判斷スルコトナレバ、價值ハ主觀的ノモノナリト言フ間ニモ、多少客觀的性質ヲ帶ブル分子ガ、非常ニ有力ニ働クモノナルコトヲ言ハレザルハ

物足ラヌ心地ス、此事ヲ明カニスルニ於テハ價值ヲ主觀的價值ト客觀的價值トニ區別セントスル企ガ、何故ニ爲サレシコトアルカノ理由ヲモ説明スルニ足ラン

(三) 價值ト代價トノ觀念上ノ關係、

價格ノ章ニ於テ說カレシ所ヲ見ルニ、價值ト代價トヲ全ク別物トシ、價值ハ代價決定ノ一原因ニ外ナラズトセラレタルハ、九十四頁ニ「代價トハ貨幣ヲ以テ量定セラレタル交換價值ナリ」ト云ハレシト、少シク調和シ難キ様ニ思ハル、

又八十頁ニ於テ「他ノ財ト交換シ得ル財ノ効用ニ對スル人ノ主觀的認識ノ程度其物……ヲ財ノ交換價值ト稱ス」ト言ハレタルト、九十四頁ニアル前記ノ文句、即チ「代價トハ貨幣ヲ以テ量定セラレタル財ノ交換價值ナリ」トヲ照合ス時ハ、茲ニ一ノ不都合ヲ生ジ、代價モ亦主觀的ノモノトナリテ、財ノ所有者ガ其

財ニ對シ、此レハ百圓位ノモノナリ」トノ評價ヲ爲サバ、是レ即チ其財ノ代價ナリト云フコトニ歸着セザルベカラズ、是レ恐クハ著者ノ意ニ非ズシテ單ニ文章ノ誤ナルベシ、但シ著者ガ若シ Fuchs 等ノ爲ス所ニ倣ヒ、代價ニ主觀的代價ト客觀的代價トノ別アルコトヲ認ムルナラバ、ソハ自ラ別問題ナレド、著者ハ毫モ此事ニ論及セザルナリ、

#### (四)代價決定ノ原因、

此レハ一般ノ物價ノミナラズ、利子ニモ、賃金ニモ、關係スルコトニテ、此ノ三者ニハ凡テ同一ノ理論ヲ適用シ得可キヲ以テ、經濟學上ノ至重要ノ問題ニシテ、本書ノ價值ノ一半ハ確カニ、此問題ヲ正當ニ解決シタルヤ否ヤニ懸ルト云フモ可ナリ、今先ヅ著者ノ意見ヲ聞クニ左ノ如シ(百〇四頁)

「需要並ニ供給ハ如何ニシテ發生シ、又如何ニシテ決定シ、從テ又如何ニシテ價格(代價)ヲ左右スルモノナリヤトイフニ、

需要、供給、與ニ其高チ決定スルノ原因ニ各々三種アルベシ即チ

需要ノ高チ決定スル原因、

第一、買手ノ財ニ認ムル價值ノ多少

第二、買手ノ購買力ノ大小

第三、買手ノ競争ノ有無強弱

供給ノ高チ決定スル原因、

第一、賣手ノ貨幣ニ認ムル價值ノ多少

第二、賣品ノ生産費ノ大小

第三、賣手ノ競争ノ有無強弱

是レ也」ト

此說ヲ一讀シテ、予ハ先ヅ何トナク一種ノ奇異ノ感アルヲ免ガレザリキ、再讀三讀スルニ及ンデ、其間ニ幾分カ、思想ノ混線アルガ爲ニ然ルコトヲ發見シタリ、試ミニ之ヲ辯センカ、

往年、Adam Smith, Ricardo 等ガ、代價決定ノ法則ヲ研究シタル態度ト、近時獨逸ノ多數ノ學者ガ、之ヲ研究スル態度トベ、大ニ其趣ヲ異ニス、近頃 Karl Diehl ン、前者ヲ Objekt-

twistische Richtung ト云ヒ、後者ヲ Subjektivistische Richtung ト名ケシガ、予ハ更ニ他ノ方面ヨリ區別シテ、假リニ前者ヲ大局打算派ト稱シ、後者ヲ個人心理派ト呼バントス、蓋シ英國流ノ研究ニ在テハ、一市場ニ於ケル或ル物ノ代價ハ、(甲)顧客ヲ求ムル其財ノ分量ト、(乙)之ニ對スル購買力ヲ伴ヘル購買希望ノ分量トノ關係如何ニヨリテ定マルモノナリトノ事ヲ主張ス、J. S. Mill ノ如キハ、稍精細ノ説明ヲ加ヘタレドモ、其主張ノ要點ハ此外ニ出デズシテ、要スルニ代價ハ、社會全體ノ事情ニヨリテ決定スルモノナリトシ、大局ヨリ打算シテ、代價ハ如何ナル場合ニ、如何ニ變動スルカヲ知ラントスルナリ、故ニ予ハ之ヲ呼ンデ大局打算派ト云フ、然ルニ斯カル方針ニテ一通リ満足スベキ程度迄、此ノ問題ヲ解決スルコトハ非常ニ困難ナルヲ以テ、獨逸ノ學者ガ茲ニ一ノ新方針ヲ案出スルニ至リシモノ、

此レ即チ予ノ所謂個人心理派ナリトス、元來或ル物ノ代價ハ同ジ時同ジ社會ニ於テハ何人ト何人トノ間ニ於テモ、大抵一樣ナルニハ相違ナキモ、實際各取引ニ際シテ、賣手ト買手トノ間ニ各別ニ協定セラル、コト、言フ迄モ無キ所ナルヲ以テ、縱令間接ニハ種々ノ外界ノ原因ニヨリテ支配セラルトスルモ、直接ニハ賣手ト買手トノ心理ニヨリテ、左右セラルルモノタルハ疑ナシ、サレバ此點ヲ基礎トシテ立論スルコト、代價決定ノ原因ヲ明カニスルニ最モ便宜ナリトハ Hermann, Böhm-Bawerk, Brentano 等ノ考ナルガ如シ、  
此ノ如ク、此ノ問題ノ研究ニ二方針アルヲ以テ、代價決定ノ原因トシテ擧ゲラル、モノニモ亦各差アリ、英國流ニテハ大局ヨリ打算セントスルガ故ニ、代價決定ノ原因ハ「需要」ト「供給」(Demand and Supply) トノ關係ニアリト云ヒ、獨逸流ニテハ、賣手ト買手トノ心理

ヨリ説明セントスルガ故ニ、「需要者側ノ代價決定原因」ト「供給者側ノ代價決定原因」ナルモノヲ舉グ、Hermann ノ所謂 Preisbestimmungsgründe auf Seite der Nachfragenden; Preisbestimmungsgründe auf Seite der Anbietenden 即チ是レ也、津村君ガ其註ニ引用セラレタル Böhm-Bawerk, Positive Theory of Capital ニモ、「個人的ノ代價決定原因」(individual determinants of price)ト題スル一章ヲ置テ、之ヲ論ジタルニヨリテ、十分ニ其意ノ在ル所ヲ察スルニ足ルベシ、即チ今、津村君ノ言フ所ノ「需要ノ高ヲ決定スル原因」及「供給ノ高ヲ決定スル原因」ナルモノハ、實ハ「需要ノ高又ハ供給ノ高ヲ決定スル原因」ニ非ズシテ、「需要者側ノ代價決定原因」及「供給者側ノ代價決定原因」ニ外ナラザルベシ、何トナレバ雙方ニ三ヶ條又ハ四ヶ條ノ決定原因アルコトヲ認ムルハ、個人心理派ノ創案ニシテ、大局打算派ノ

未ダ嘗テ爲サル所、又爲スベカラザル所ナレバナリ、

尤モ斯ク言ヘバトテ、予ハ必ズシモ大局打算派ノ研究方針ヲ全然排斥シテ、個人心理派ノミヲ謳歌スル者ニ非ズ、個人心理派ノ説明ハ如何ニモ正シキニハ相違ナシト雖モ、サリトテ吾人ガ、其云フ所ノ代價決定原因數ヶ條ヲ理解シタレバトテ、之ニヨリテ實際ニ於ケル過去ノ物價變動ヲ説明シ、又ハ將來ノ變動ヲ豫測スルコト能ハズ、其場合ニハ矢張り穀物ガ豐作ナリシトカ、金山ガ發見セラレテ金ノ產出ヲ増加シタリトカ、技術ガ改良セラレテ生産費ガ安クナリシトカ、戰爭ノ爲メニ或ル物ガ非常ニ多ク買上セラレタリトカ、云フ如キ大局ヨリ見タル數量上ノ關係(予ハ之レヲ需要又ハ供給ト解ス)ヲ援キ來ツテ、説明ヲ下スノ外ナカルベシ、學者豈ニ輕々ニ大局打算派ヲ捨テ、個人心理派ニ趨クベケンヤ、

Marshall, Schmoller, Wagner 等ノ大家ガ個人心理派ノ説ヲ是認シナガラ、尙大體ニ於テハ、大局打算派ニ屬スルモノ、是レ實ニ深キ意味アリテノコトナルベキハ、予ノ確信スル所ナリ

津村君ハ、代價ノ研究ニ上記ノ如キ二派アルコトラ言ハズシテ、却テ二派ノ主張ヲ調和セントシ、前記ノ如キ説ヲナシタルモノナルベキモ、斯カル企ハ所謂 unglücklich ナルモノナルベシ、之ヲ大局打算派トシテ解セントセバ需要ノ高ヲ決定スル三原因中ノ第三ト、供給ノ高ヲ決スル三原因中ノ第三トノ外ハ、理解シ難ク、又之ヲ個人心理派トシテ解センニハ此ノ第三ノ原因ガ、相互ニ入レ違ヒニナラザルベカラズ、即チ需要ノ高ヲ決定スル原因中ノ第三トセラレタルモノガ、却テ供給ノ側ノ原因トナリ、供給ノ高ヲ決定スル原因中ノ第三トセラレタルモノガ、却テ需要ノ側ノ原因

トナラザルベカラザルナリ、(Brentano ノナス如ク) 要スルニ津村君ガ、代價決定原因ノ研究ニ二主義アルニ拘ラズ、之ヲ混同シタルハ其説ヲシテ何トナク不透明ナラシメタル所以ニシテ予ハ之ヲ目シテ、思想ノ混線ナリト云フモ、過言ニ非ザルベシト思フ、

### (五) 利子決定ノ原因、

此レニ付テモ予ハ前ト同様ノ批評ヲ下サントスルモ、今ハ唯津村君ノ説ト Brentano ノ説トヲ對照シテ、讀者ノ判斷ニ任サントス

津村君ノ説

需要ノ高ヲ決定スル原因

第一、借手ノ資本ニ認ムル價值ノ多少

第二、借手ノ支拂能力

Brentano ノ説(講義筆記ニモル)  
Was bestimmt den Zins, den der Nachfragende zu zahlen bereit ist? Das sind:

1. Die Dringlichkeit des Bedürfnisses des Darlehensempfängers.
2. Die Brauchbarkeit des gebotenen Kapitals für die Befriedigung dieses Bedürfnisses.
3. Die Zahlungsfähigkeit der Entlehner.

第三、借手ノ競争ノ有無  
強弱

供給ノ高ヲ決定スル原因

第一、貸手ノ資本ニ認ム  
ル價值ノ多少

第二、放資ノ安危

第三、貸手ノ競争ノ有無  
強弱

(六) 賃金決定ノ原因、

之ニ付テモ亦同様ナレドモ煩雜ナルガ故ニ省  
ク

(七) 所得ノ意義、

之ニ關スル予ノ意見ハ、詳細ニ本誌第一卷第  
一號ニ述ベタルガ故ニ今之ヲ述ベザルモ、唯  
津村君ト一致セザルコトヲ一言シ置カン、但  
シ其意見ノ差異ハ、唯流義ノ差異ニシテ、必

4. Die anderweitige Beschaffungsmöglichkeit der benötigten Kapitalien, oder die Konkurrenz der Kapitalanbietenden.

Die Momente, die bei der Bemessung des Zinses massgebend sind auf seit des Kapitalbesitzers, sind:

1. Die Dringlichkeit des Bedürfnisses auf dem Wege des Ausleihens, das Kapital nutzbar zu machen.  
2. Die Branchbarkeit der gebotenen Geldrente für die Befriedigung seiner Bedürfnisse.

3. Der Tauschwert des Zahlungsmittels.

4. Anderweitige Anlagemöglichkeit für sein Kapital.

ズシモ優劣ノ差異ニ非ズ、

(八) 貨幣分量説、

著者ハ或ル制限ノ下ニ此ノ説ヲ是認セラル、  
モ、元來此説ハ米國流ノ抽象的經濟學ノ前提  
ノ下ニ於テノミ、正シキモノナレバ、主ニ獨  
逸流ニ組ミ立テラレタル本書ニ在テハ、他ノ  
部分ト調和シ難キヲ免カレズ、

(九) 自然法説、

著者ハ重農學派ガ人事モ亦 lois naturelles ニ  
支配セラル、ヲ以テ經濟ノ研究ニモ自然科學  
ニ對スルト同様ノ態度ヲ持セザルベカラザル  
コトヲ主張シタルヲ稱シテ彼等ハ自然法説ヲ  
信ジタリト云ヘリ自然法説ナル語ヲ此クノ如  
キ意味ニ用キルモ不可ナキ如クナレドモ從來  
本邦ニテ用キラレシハ droit naturelle ノ意ナ  
レバ此ノ用語ハ不穩當ニハ非ザルカ最モ單ニ  
「自然法」トノミ云ハハ或ハ lois naturelles ノ  
コト、解シ得ベケンモ殊更「自然法説」ト云フ

カラニハ Grolius 以來ノ droit naturelle ノ  
コトヲ云フモノト解セラレ隨テ此部分ハ誤レ  
ルモノト思ハレテモ仕方ナカルベシ

以上予ハ本書ニ對シ、予ノ懷ク所ノ疑問ノ主  
要ナルモノヲ舉ゲタリ、中ニハ或ハ、予ノ偏見  
ノ爲ニ著者ヲ累スルモノナキニ非ザルベキハ、  
予ノ深ク謝スル所ナリ、然レドモ本書ニ對シ世  
間並ノ評言ヲ加ヘテ、單ニ稀有ノ良書ナリトノ  
ミ云ハンハ、却テ本書ヲ輕ンズル所以ニシテ、  
決シテ著者ニ對シ充分ノ敬意ヲ表スル所以ニ非  
ザルベキヲ思ヒ、忌憚ナク愚見ヲ述ブルコト此  
クノ如シ、然レドモ言フハ易ク行フハ難シ、津  
村君ノ著書ヲ見テ、予ハ此クノ如キ批評ヲ爲ス  
ト雖ドモ、予自ラ筆ヲ執テ書ヲ著ハザバ、其書  
ノ缺點ハ、到底津村君ノ著書ノ如ク少キヲ得ザ  
ルベシ、是レ固ヨリ予ノ充分ニ知ル所ナリ、但  
ダ學問ノ進歩ハ、忠實ナル批評ニヨリテ促サル  
ルモノナルヲ以テ、遠慮ナキ友人間ニ在テ、互

ニ其說ノ缺點ヲ指摘スルハ、相携ヘテ學ニ忠ナ  
ル所以ノ途ナリ、予ハ切ニ著者ノ寬恕ヲ祈ル、  
大體ノ結構ニ付テハ予別ニ說アリ、然レドモ  
此ハ眞ニ流義ノ問題ナルガ故ニ、今姑ク之ヲ言  
ハズ、(瀧本)